第３回 栃木県総合計画懇談会

会議結果の概要

平成 22 年 5 月 18 日

栃木県総合政策部総合政策課

○第３回栃木県総合計画懇談会の開催結果

１　日　時　　平成 22 年５月 18 日（火）14:00～15:30

２　場　所　　栃木県公館大会議室

３　出席者　　須賀会長、茅野会長代理、相田委員、青木委員、青田委員、伊澤委員、石田委員、上野委員、大嶋委員、尾形委員、奥村委員、小池委員、粉川委員、小林委員、小松委員、笹崎委員、島田委員、螺良委員、當麻委員、中田委員、中津委員、中村委員、橋本委員、藤井委員、黛委員、宮下委員、簗委員、山岡委員、渡邉委員

〔県〕福田知事、須藤副知事、麻生副知事、各部局長ほか

４　概　要

(1)　知事あいさつ

第３回栃木県総合計画懇談会の開催に当たりごあいさつを申し上げる。

皆様方には、日ごろから県勢発展のためにご理解とご協力をいただいていることに心から感謝を申し上げる。また、本日はご多用の中ご出席を賜り、御礼を申し上げる。

現在、高齢者交通安全県民総ぐるみ運動を実施している。５月 11 日まで 10 万人当たりの交通事故死者数が栃木県はワースト１位、５月 12 日から鳥取県が１位になり、栃木県は２位になったが、不名誉な状況が続いている。そこで、高齢者を交通事故から守る、交通事故をなくすということから、３Ｓ運動を行っている。１つ目は See で「見る」、２つ目は Slow で「スピードを出さない」、３つ目は Stop で「しっかりと交差点等は止まる」、この３Ｓ運動を実施しているところである。本日ご出席の皆様方にもその実践を、また、職場等においてもご協力をお願いしたい。

さて、次期総合計画の策定については、２月に開催した第２回懇談会において、総論部分となる第１次素案をお示しし、委員の皆様方から、今後の計画を具体化していくに当たり鍵となる「人づくり」や「地域コミュニティ」、「協働」、「安全・安心」、そして「産業」などについて、県としての課題や検討の方向性に対する貴重なご意見やご提言をいただいた。

また、２月から３月末にかけてパブリック・コメントを実施し、県民の皆様から多くのご意見を頂戴したところであり、その内容については、後ほど事務局からご報告を申し上げる。

本日からは、いよいよ次期総合計画を具体のものとしていくための作業となる。「誰もが住んでみたい、住み続けたいと思う“とちぎ”づくり」のために、限られた行財政資源を有効に活用し、県民、そして団体、企業、市町村など広くご参加を得ながら、重点的に取り組むべき戦略等について、委員の皆様からご意見を賜りたいと考えている。

併せて、本日は、より議論を深めていただく場としての部会についてもご検討願うことになっているので、よろしくお願いしたい。

結びに、総合計画は県政の基本指針というだけではなく、県民の皆様と一緒になって考え、そして行動していくための羅針盤としていきたいと考えている。さらに、計画が栃木県の未来に多くの元気

を灯す灯台でなければならないと考えているので、委員の皆様方には忌憚のないご意見、ご提言をいただきたい。

(2)　議　事

事務局から資料１「次期総合計画第１次素案に対するパブリック・コメントの実施結果」、及び資料２「“とちぎ”づくり戦略の考え方」について説明し、意見交換を行った。

【発言要旨】

〔委員〕

政策の基本「人づくり」について、ライフステージごとに表があり、「子ども→若者→子育て世代→大人→シルバー世代」とあるが、単純に矢印をたどっていくと、私ども子育て世代はまだ大人になれないのだろうかと、とても違和感がある。子育て世代も大人に入れて書いていただければと思う。

〔総合政策部長〕

人づくりのイメージ図においては、子ども、若者もそれぞれ、その上に「人をはぐくむ」、「人を活かす」というラインを引いているが、若者においても人を活かすということが当然かかってくる。ご指摘の「子ども→若者→子育て世代→大人→シルバー世代」も、必ずしもスパッと縦一列になるものではないと私どもも思っている。基本的には、人生の中のターニングポイントがそれぞれあり、そういった部分に着目したということでこういう記載にしたところであるが、今後、部会において、人づくりについてもご検討いただくことになると思うので、ご指摘の点についてもご意見を賜りたい。

〔委員〕

寄せられた声を見ると多方面からいろいろな要望が集まっているが、これからの計画を進めるに当たっては、できないことを捨てなければいけないと思う。つまり、総花的になりがちなものを、今回、重点目標でこれをやる、あるいはこれとその次にはこれをやれたらやる、しかしここまでは無理だという議論をしないと。まとめの段階で、いろいろな意見は入ったけれども果たしてどうなのかという結果に陥りがちなので、その点を我々は留意しながら部会を進めていけたらと思う。

〔委員〕

「部局横断的なプロジェクト」と書いてあるが、イメージがわかない。プロジェクトを立ち上げて実際に何かをするということなのか、もう少し説明いただければと思う。

〔総合政策部長〕

プロジェクトについては、具体的に部会でご検討いただくところが多くなってくるかと思うが、現在、私ども事務局でも幾つか検討を進めている。委員の皆さんに先見を与えてはという思いで、例示をしなかったが、例えば「暮らしを支える安心戦略」でいえば「安心の子育て環境づくりプロジェクト」といったイメージになろうかと思う。そのリストアップについては、これまでの県民や市町村長意向調査等の中で非常に重要だが満足度が低い項目、このトップは「安心で良質な医療の確保」だっが、そのような中からプロジェクトの絞り込みを進めていきたい。選定に当たっては、これまでの当

懇談会のご意見や本日のご意見等を踏まえながら作業を進めて参りたいと考えている。

〔委員〕

例えば今の課題でいうと、それを部局横断でやらなければならない必然性、部局横断であるがゆえにできるメリットが何かあるのか。

〔総合政策部長〕

すべてを部局横断的なものに限定するということではないが、できるだけ全庁で連携を図りながら事業・施策が推進できるものという意味である。例えば、農商工連携ということがこれからの議論の中にも出てこようかと思うが、農政部の事業と産業労働観光部の事業の連携を図っていく、それがまた今日的な課題になってきているという認識のもとに、部局横断的な課題ととらえられる。先ほど基本として、という申し上げ方をしたが、できるだけ部局横断的なものを取り上げていくということで、ご理解をいただければと思う。

〔委員〕

私は栃木県青少年団体連絡協議会に所属しているが、青少年団体が減少の一途をたどっており、私どもは魅力的な団体づくりということを念頭において活動している。

総合計画素案については、戦略というものは大まかなもので、これから私どもが部会に分かれて詰めていくことになるので、これでよろしいのではないかと思う。

〔委員〕

やはり県民が安心して安全に住み続けられるような施策ということが基本にあるかと思う。今、人口減少、地域においては独居世帯や貧困世帯が増加する中で、地域全体の見守りやネットワークづくりをし、安心して住み続けられるように、今後、部会の中で意見を述べていきたい。

〔委員〕

今は時代の流れが早いが、この計画をつくって、その期間、全く軌道修正はしないのか。

〔総合政策部長〕

委員ご指摘のとおり、現在、社会経済情勢は非常に流動的で不透明な中にある。したがって、まず第１に、今回の計画そのものも、これまでの総花的なものではなく、選択と集中により重点化を図ることとした。これまでの総合計画では 50 の施策の下に 156 の単位施策を設け、さらにその下に事業があったが、今回の計画案ではその部分は捨象することとしている。今後どういう状況に変わるか分からず、そこまで細かく規定すると逆にそれに縛られるということがあるので、今申し上げたようなスタイルで次期計画は臨みたいと思っている。

また、計画を遂行している間に出てくる新たな課題等もあろうかと思う。現在の元気プランにおける進め方で言うと、毎年度、政策経営基本方針という次年度の予算・政策・組織等の基本的な方針を示すものを策定している。その中で新たな課題については、重点施策として取り上げ、その部分の対応を決めている。次期計画においても、同じような方法で対応していくことになろうかと思う。

〔会長〕

参考資料１に、各部局における主な計画として 77 の計画が記載されている。次期総合計画の考え方は、部局横断的に大きなくくりで施策の柱を幾つか立て、その方向に向けて具体的な事業が推進できるように、各部局が個々の計画をつくって実施していくということである。そういう位置付けで、総合計画は細かく個々の事業まで規定するものではなく、大きな政策の柱を立てていくものではないかと理解している。したがって、参考資料１にある計画がすべて盛り込まれるような総合計画にはならず、幾つか重点的な分野を皆様方に選んでいただくことになると思うので、今回の総合計画はある程度柔軟なものになるのではないか。

〔委員〕

総合計画の基本構成であるが、まず、「時代の潮流と“とちぎ”の可能性」は、全国どこでも同じものと、ある程度地域を絞り込んだものがある。「“とちぎ”の可能性」はまさに栃木県のことだが、例えば人口減少とか少子高齢化は栃木県だけの問題ではない。この中で栃木県として何をするのかという具体的なものが、栃木県だけの差別化として出てくる戦略なのかどうか。グローバル化や高度情報化の進展なども同じで、例えば高度情報化について栃木県だけが一つのアドバンテージをつくりたいのであれば、栃木県だけの何らかの投資をするのか。具体性についてお聞きしたい。

それから「“とちぎ”を創る」では、「私たちが目指すのは、一人ひとりが真に輝き、誰もが安心して暮らせ、次世代へと環境を守り伝え」ということであるが、他県の方が栃木県に住みたい、栃木県に行って創業してみたいというものが将来のビジョンとしてないと。現状を維持する、現状を守るというのはわかるが、成長戦略はそういうものではないと思う。そこをお考えいただきたい。

もう一つは、先ほどもご意見があったが、選択と集中ということを挙げる以上、切り捨てなければならないものがあると思う。それをどのような基準で考えていくのか。我々が努力して変化できるものに我々の努力は集中しなければならない。例えば短期間に人口減少をどうできるのかと問われたときに、現実には栃木県だけで人口減少を止める方法はあるだろうか。そういうものに時間を費やしても、栃木県の総合計画の中でどの程度が可能なのか、私は非常に疑問に思っている。

これ全体を見ると、県民一人ひとり、もっと極端にいえば弱者や高齢者にどうしても目線が合う。私は経済界から来ているので申し上げると、中小企業や栃木県で創業していただける方を強くする方法はないだろうか。弱者優先の時代だとすれば、弱者を救うための強者がいなければならない。強者とは何であるかと言ったときに、例えば小さな企業、中小企業を育てないと税収も上がらない。いろいろな文化活動や支援活動をするにしても、企業に対する資金の要請は非常に大きく、年間 1,000 万円とか 2,000 万円のお金を供給しないとならない、我々もなかなかそういう要請に応えられない。そういう企業が成長するということを目線に合わせていただいていないと感じる。これは第１回会議でも申し上げたが、そこももう少し考えていただかないと。弱者を救うためには強者がいなければいけない。強者になる企業をどう成長させるかということを議論の中に入れていただきたいと思っている。

〔委員〕

計画の中に、「人づくり」、「環境」という問題があるが、新たな視点ということで、医療問題や将来の社会保障費削減も視野に入れて、予防医学にも目を向けていってはどうかと思った。今年度の知事との対談でも予防医学が取り上げられていたように思うが。

〔委員〕

先ほどご意見にあった、例えば人口の問題であるが、人口減の要因が社会的な原因の社会減なのか、自然的な要因の自然減なのか。突っ込んでいくと、自然減は全国的な動向で、それは栃木県だけの問題ではないという議論を恐らくしなければいけない。一方で、社会減について言えば、何らかの手を打てば増に転じることができるのではないか。ここに掲げている柱自体は大体全体を網羅していると思うので、その中で全国の動向として踏まえるべきものと、栃木として実際に手をつければ可能性のあるものを、部会で突っ込んで議論したほうがいいと、話を聞いていて感じた。

〔委員〕

一番気になったところは、『“とちぎ”づくり戦略」の「戦略」という言葉である。こういうタイトルはどこまで使っていくのか。この懇談会の中だけなのか、「とちぎ元気プラン」のようなタイトルの中でも「戦略」という言葉を使っていくのか。感覚的な問題だと思うが、「戦略」というニュアンスがどうも……。「計画」だと甘いので、確たる考え方を持ちたいということで「戦略」を使ったのだと思うが、大きな総合計画の骨格となるものを伝えていこうということであれば、方法論のような感じを受ける「戦略」という言葉は違う、変えられないかという気がした。

〔委員〕

人と人とのつながり、企業と企業とのつながり、いろいろなつながりの中で栃木県民個人が生活しているわけであり、その中で、安全・安心というのは人として生活する上での基本だと思う。やはり基本以上のものを計画にしていくべきではないかと、私個人としては思う。

私はＮＰＯの職員なので、仕事がら「協働」という言葉や「つながり」ということばがよく使われる。前回も申し上げたとおり、人と人がどのようにつながっていくのか。現在は人と人とのつながりが希薄で、隣近所で何か起こっても無関心である。重点戦略として安心戦略が記載されているが、人材育成とか人とのつながりということを考えていただければと思う。

私は、現場の声を反映させていただくために出席していると思っているので、１点だけ申し上げたい。私のところに相談に来た障害を持ったお子さんは、特別支援学校に通っている。特別支援学校は地元から離れているので、放課後、地元に帰ってきて余暇活動をするために、福祉サービスの送迎バスを使っている。ある学校の教頭先生に、送迎バスが５分遅れるので、その間のお願いをしたところ、先生は「学校にいる間は子どものことを見るが、学校が終わった時点からは関係ない」と。その言葉が頭にこびりついて、ぜひ機会があればお話ししたいと思っていた。人と人とのつながりは、計画だけをつなげるのではなく、そこに関わる人たちも計画の意味をよく理解してやっていかなければいけ

ないし、県民にも冊子だけではなくこういう計画なのだと分かりやすいように伝えていく必要があると思う。

〔委員〕

人づくりが政策の基本で、その戦略が３つあり、あとは部会でという話だと、なかなか意見が出しにくいが、あえて質問するとすれば、「時代の潮流」の中で、「地方分権時代の到来」というのは、ただ現象を説明するだけなのか、今後の分権に関して、今回の計画の例えば「明日を拓く成長戦略」の中で議論するような橋渡しがあるのかどうか、お聞きしたい。

〔総合政策部長〕

第２部「“とちぎ”づくり戦略」の第３章「戦略の推進に向けて」として、多様な主体の連携・協働、地方分権、財政健全化の推進等、戦略を推進するための基盤となる考え方、取組について記載したいと考えている。委員ご案内のとおり、地方分権については、政府で地域主権戦略会議をベースに、この夏「地域主権戦略大綱」を示すこととなっている。その中で私どもに特に関係が深くなるのは、県から市町村への権限移譲、国の出先機関の見直しがどうなるのかということである。これが、タイミング的に非常にホットな時期になる。これからの作業の中で、県としての取組等も含め、第３章に記載していきたいと考えている。

〔委員〕

我々の歯科医師会は３層構造になっている。上部から政策ということで出た内容が、我々の栃木県歯科医師会、郡市部の歯科医師会に降りてくる。栃木県などの行政施策が隅々まで浸透していないところがあるので、その点などについて部会でお話しし、参考にしていただきたいと思っている。

〔委員〕

「“とちぎ”づくりの戦略」の政策の基本「人づくり」について、「子ども→若者→子育て世代→大人→シルバー世代」と分ける意味はよく分かるのだが、「人をはぐくむ」とあり、子育て世代からはだぶって「人を活かす」に移ってくる。学校教育を含めて子どもたちをはぐくむ、人材育成するということはよく分かるが、子育て世代以降、参画すら厳しい時代の中で、その意識を果たして持っているのかどうか。「活かす」という表現は違和感がある。まだ「活かす」の前段のレベルまでしか届いていないと思われる。「はぐくむ」から「人を活かす」の分け方は、もう少し考えたほうが、この先の重点戦略を考える上でも良いかと思う。

〔会長〕

「人づくり」の考え方や取組等については、「ライフステージごとに」とか、「人づくりの基本となる教育・文化・社会参画など、個人のパーソナリティや社会性の形成に係るものを記載する。」と説明が付されているが、具体的なイメージが分かりにくい。私は「人づくり」というのは、単に子どもの教育だけではなく、もちろん生涯学習もあり、子育て支援の環境づくりや大人のキャリアアップのためのいろいろな施策、シルバー世代が生き生きと社会に参画できる仕組みなど、大きなくくりで考

えていった方が良いと思っている。そのあたりは、ぜひ部会でご議論いただければありがたいと思う。

〔委員〕

先ほどのご意見にもあったが、私も「戦略」という言葉が引っかかっていた。私は児童館の母親クラブと子ども会に関わっている。子どもたちは社会が育てるものだ、と盛んにマスコミ等で言われるので、子育て世代の親御さんは、保育園に預ければいい、保育園の先生がやってくれるからいい、あちこちに子どもたちを育てる場がいっぱいあるからそこに行けばいいと、自分たちが何かしようという意識が薄いところがある。人をはぐくむことも大事だが、自分たちの子どもや社会は自分たちでつくっていかなければならないという意識を植えつける教育の仕方も考えていただきたい。実際に保育園の先生方からも、そういう親学習のプログラムの要望がかなり来ていて、現場はすごく困っているということが分かる。部会ではそのあたりの話もさせていただきたいと思っている。

〔委員〕

私は労働組合という立場からどうしても職場の課題が多くなるが、栃木県は長時間労働で、労働時間が長い県の上位に入っている。職場だけではなく、地域でのコミュニケーション、広がりということをつくっていかなければならないと思う。働きながら子育てをする女性についての課題は、地域におけるサポートである。そういう環境をつくるということになると、企業と地域、人が部局横断というと大げさだが、栃木県としてはこういう将来像を目指すのだということを明確にしていかなければならないと考えている。私の中のキーワードは「地域」である。

また、参考資料１に各部局の主な計画等の一覧があるが、それぞれどこと関連があって、どこと協力し合っているのかが見えない。例えば、私も参加している次世代育成支援プランや、男女共同参画プランなども、同じことを違う方向から論議している。部局横断のプロジェクトを立ち上げることも一つであるが、今ある計画等を精査していくことも大切ではないかと思う。

また、こういったことが県民の皆さんに知られていないということであれば、「多様な主体とのパートナーシップ」をとる以前に、それぞれの団体等が協力し合えるよう、行政に間に入っていただき、コーディネートをしてほしい。

〔委員〕

具体的なことは部会で検討したいと思うが、政策の基本が人づくりというのはもっともなことで、一番大切だと思う。また、これだけ産業の先が見えないと、柱の１つに産業育成があってもいいと考えていた。

〔会長〕

重点戦略の「成長戦略」、「環境戦略」の両方に、産業の育成や産業の自立化ということは当然入ってくると思う。

〔委員〕

私は県の医師会で、医療政策、地域医療を担当しているので、「安心・安全」というテーマに、少

しは関われるかなと楽しみにしているところである。部会の中で各論的なことを話し合えればと考えている。

計画のための話し合いではなく、ぜひ実現性のあるものを挙げていただきたいと思っている。きれいごとを言っても実現しないことにはどうにもならない。現実に我々が今経験している地域医療の崩壊、医師不足といったテーマにしても、やはり実現性のある計画をぜひ皆さんで。

そしてまた、「県民の目線」「国民の目線」という言葉をよく使うが、本当に彼らのことを考えているのか。我々はもう少しその「目線」というものを真摯にとらえて考えていくべきではないかと思う。

〔委員〕

「暮らしを支える安心戦略」ということで、私は一番大事なのは食だと思っている。一口に地産地消といっても、我々は安心・安全な農畜産物を生産しているが、それをどう地域の人に理解してもらうかが課題である。今後、部会の中でもう少し突っ込んだ意見を述べたいと思っている。

〔委員〕

“とちぎ”の将来像について、「一人ひとりが真に輝き」、「誰もが安心して暮らせ」等と５項目あるが、これは、将来の我が国や栃木県がどんな姿になっている中で「一人ひとりが真に輝き」、「誰も安心して暮らせ」るのか、よく分かるようで分からない。「時代の潮流と“とちぎ”の課題」に、そのあたりの問題は書いてあるが、産業界の立場からすると、日本は、重化学工業を機軸にした工業社会から、知識産業やサービス産業を機軸とする知識社会へ転換しかかっている時代ではないかと思う。そういう時代に必要な人、労働参画をどのようにして実現し、「一人ひとりが真に輝き」、「誰も安心して暮らせ」る基本的で人間的な能力をどうつくっていくか、一生懸命考えなければならない。重化学工業に合うような「人づくり」を一生懸命やっても、マッチングしなくなってしまう。「人づくり」をベースにすることは大変結構であるが、「人づくり」のためのインフラとして教育体系等いろいろなものが必要になる。誰でも、いつでも、どこでも、できればただで、人間的な能力を生涯にわたって持ち続けるインフラをどうつくっていくのかが重要だと思う。重化学工業的なことだけを考えて「人づくり」をしていくのか、どのように考えていくのか、それによって大分変わってくる。これから舵を切っていく知識社会に対して、どう考えていくかを将来像の中でもっと明らかにしていった方がいいと思う。

〔委員〕

企業で働く者の立場でも、企業がしっかりしていないと雇用も賃金も含めて生活の安定、安心につながらないと思う。人口は職を求めて移動するというように、職がないと県の人口も減少傾向になってしまう。これから部会の中で、成長戦略、環境戦略、安心戦略のさまざまな具体策が提示されると思うが、合計特殊出生率は沖縄県がトップで、次が青森か秋田かと。栃木県はこれがどんな位置にあるのか等も含めて、これから部会でさまざまな意見が出ると思うが、ぜひ数値目標をお願いしたい。例えば今、県内の失業者が何人いてそれを何人にする、グリーンジョブにかかわる雇用創出でどのく

らいなど。経済情勢も非常に変化が速い中で、きっちり細かいところまでは決めないという話があったが、数値目標も一切出さないのかどうか伺いたい。

〔総合政策部長〕

指標については、部会でもご意見をいただくことになろうかと思うが、基本的に、現在のとちぎ元気プランにおいても、１つの施策に関して３つの成果指標を設定している。次期計画は網羅的ではなく限定的にとは言っても、それぞれのプロジェクトごとに県民の皆様にできるだけわかりやすい成果指標、つまり予算を幾ら投じるかということだけではなく、県がこのようにやり、市町村がこのようにやり、県民の方がこのようにやることによって到達したい目標、そういう成果指標については次期計画の中でも設定していきたいと考えている。

〔委員〕

選択と集中というが、何をもとにしての選択と集中なのか。県が将来像をより明確にし、それをもとにして各部会で話し合って、県民が受け身ではなく主体的になれるような総合計画をつくっていきたいと思っている。

〔会長〕

選択と集中のメルクマールは議論になるところだと思うので、これから議論を深めていただければありがたいと思っている。

〔委員〕

印象であるが、今日の全体論で言っていることと、実際の現場とのギャップは大変なものがあると思う。県民と一口に言っても多様であるが、我々の存在は、県民の方々と今日検討した言葉をつなぐような役割があると思う。そういう意味で、部会が勝負ではないかと思った。

〔委員〕

今後の検討の仕方でよく分からない点が１つある。実行面を含め余り細かくすると計画が計画で終わりかねない事を配慮し、新たにプロジェクトという言葉が出てきていると思う。民意は非常に細かい施策を求めているから、プロジェクトという名前で計画をオブラートに包み、選択と集中で何とか整合を取ろうとするのは分かるが、部会という分散した状態の中で、その結果が導き出せるかどうか。

現在の行政組織に対し横断的なプロジェクトの検討も重要であるが、それは方法論として当然な話で、計画遂行に際し組織横断的にやらねばならないものは横断的にやるべきである。委員の方々のご意見からも、各部会の３つの戦略軸で横断的に検討しなければならないプロジェクトが発生し、議論になりそうだと感じた。細かく施策まで落として調整するのであれば理解しやすいが、プロジェクトという単位で抽象化した場合、今後どのように部会の中で検討していくのか難しい。この点については各部会長さんが非常に苦労されると思うが、部会長連絡会議のようなものをつくって、部会そのものが横断的な面を考慮し検討が進められれば、今後のプロジェクト遂行の面でも活用できるベスト・プラクティスとできるのではないか、と考えるので、ご検討をお願いしたい。

〔委員〕

県議会の次期総合計画検討会でもいろいろ提案できると思っている。本日は皆さんのご意見をよく聞かせていただいき反映していこうという思いもあり、発言を控えさせていただいたが、１回目ということで確認も含めて・・・。

次期総合計画では、基本的なプロジェクトのイメージまでで、それぞれの事業に関しては列記しない。こういう形と従来型の事業まで全部入れる形の２つがあり、今回はこの形を選択したということであるが、それぞれのメリット・デメリットについて、最初に説明されたのか。それが１点目である。

弱点というものがあると思う。弱点というのは、先ほどもご発言があったように、よく分かるような分からないようなというイメージ、あるいは、これからプロジェクトを構築した中で実行性や実現性があるのかどうか。具体的な事業が明確になっていないので、皆さんも指標が示されるのかどうか心配なさっているのだと思う。そのあたりをどのようにとらえているのかお聞きしたいというのが２点目である。

もう１点は、選択と集中は非常に難しいが、重点化に当たっては、県民意向調査、市町村長意向調査、さらに、全国の水準に比べ著しく遅れている分野、知事マニフェストなどを基本に絞込みを行うと記載されている。現在、「とちぎ未来開拓プログラム」を実施する中で、全国でも上位レベルにあったものを全国で最低水準に引き下げた事業が何点かあるわけで、これとの整合性をどう考えているのか。「とちぎ未来開拓プログラム」の基本的な考え方は次期計画に盛り込まれていくと聞いていたが、このような選択と集中の考え方をするということになると、果たしてきっちり反映されていくかなと思う部分も出てきてしまう。そのあたりの整合性について聞いてみたい。

〔総合政策部長〕

次期計画においても、当然、戦略の下に幾つかのプロジェクトを掲げ、プロジェクトの下にプロジェクトを推進するための具体的、重点的な取組を掲載していきたいと考えている。ただし、現計画では結果としてピラミッドの末端まで行くと、県の事業を相当網羅しているのに対して、次期計画ではそこは限定的、重点的に取り組む部分のみを掲げていきたいと考えている。

また、「とちぎ未来開拓プログラム」との関係であるが、「とちぎ未来開拓プログラム」策定の前に、議会の行財政検討会の中において、まずは将来像をしっかり掲げるべきということで何点かのポイントを示していただいた。それを踏まえ「とちぎ未来開拓プログラム」では将来像を掲げ、それを実現するための「県民ニーズへの的確な対応」と「財政基盤の確立に向けて」という組み立てになっている。「とちぎ未来開拓プログラム」の考え方を踏襲するというのは、まさにプログラムのスキームをそのまま受け継いでいくということである。

実際にやれるかどうかに関しては、現在の社会経済情勢や地方財政制度をめぐる状況等も非常に不透明な中であるので、むしろ、基本的にはこれはやっていこうという部分を明らかにする形で計画づくりを検討していければと考えている。

5　その他

- 部会設置　４部会 「人づくり部会」、「安心戦略部会」、「成長戦略部会」、「環境戦略部会」
- 第１回部会の開催予定　６月 28 日、７月１日
- 第２回部会の開催予定　９月９日、10 日
- 第４回栃木県総合計画懇談会の開催予定　10 月 29 日